

つくば古楽アンサンブル合宿 2018

■日程:

2018年8月23日(木)14時集合～26日(日)16時頃解散

■会場:

豊里ゆかりの森 宿舎「あかまつ」(茨城県つくば市)

■スタッフ:

アンサンブル講師:平尾雅子, 本村睦幸, 上尾直毅/
レクチャー講師:福島康晴/ダンス講師:平尾雅子/
通奏低音アシスタント:福間彩/料理:遠藤雅司

■募集人数:

アンサンブル9組(最大32名)

■内容:

- バロックアンサンブル、コンソート等のレッスン
 - ・楽器編成は任意で、講師の専門楽器以外も歓迎します。
 - ・各グループともすべての講師のレッスンを受講します。
 - ・全日程で計4コマ(1コマ1時間)のレッスンがあります。
 - ・チェンバロのピッチは415、チェンバロを使わない場合のピッチは任意です。
- 講師演奏会・ダンス・レクチャー・発表会など(裏面のスケジュールをご覧ください)

■参加費:

一般1名 55,000円/学生1名 45,000円(受講料. 宿泊費. 食事代)
[ホテルなどに宿泊して、通いで参加される場合、宿泊費分減額されます。ご相談ください。]

■応募について:

応募は、アンサンブル単位で受け付けます。
アンサンブルメンバーをお探しの方は、どうぞお気軽にご相談ください。ご相談くださった方同士でアンサンブルが成立した時点でお申し込みを承ります。できるだけ早めにお問い合わせください。

■募集期間:

4月1日～6月20日
(受付は先着順。満員になり次第締め切ります。)

■お問い合わせ:

ryoko.izumida22@gmail.com 泉田(いずみだ)
メールでのご連絡が難しい場合は、090-2609-6542
にお電話ください。(出られないことが多いので、伝言をお残してください。)

今年の食事は「歴メシ！」



■スケジュール（時間は多少前後する可能性があります）

23日 14:00～ 受付開始 グループ・個人練習
 18:00 講師演奏会（一般公開。受講生以外の方は3,000円）
 19:00 夕食
 21:00 懇親会

24日 9:00～ アンサンブルレッスン（各グループ 1 回）
 12:30 昼食（食後、自由練習）
 15:00～ アンサンブルレッスン（各グループ 1 回）
 18:30 夕食「ヴェルサイユの晩餐」
 19:30 レクチャー
 「ルネサンスから初期バロックに繋がる記譜法とテンポ設定について」

25日 9:00～ アンサンブルレッスン（各グループ 1 回）
 12:30 バーベキュー（食後、自由練習）
 15:30～ アンサンブルレッスン（各グループ 1 回）
 19:00 夕食「メディチ家の食卓」
 20:00 ダンスを踊ろう

26日 9:30～ リハーサル（各グループ30分）
 12:00 昼食
 13:00～ 受講生コンサート
 16:00 解散



合間の時間には、自由に練習していただけます。参加グループ以外のメンバーとも臨時のアンサンブルを組むなど、有意義にご活用ください。

平尾雅子: 国立音楽大学楽理科卒業後、スイスのバーゼル・スコラ・カントルムにてディプロマを取得。さらにオランダのデン・ハーグ王立音楽院にて研鑽を積む。故大橋敏成、J.サバル、W.クイケン各氏に師事。自らの研究をもとに様々な演奏会を企画する一方、CD「マラン・マレの横顔」I-V、「J.S.バッハ ヴィオラ・ダ・ガンバ ソナタ全3曲 他」「ディエゴ・オルティス〜ルネサンス装飾の粋〜」「フランソワ・クーブラン ヴィオールのための音楽」(ゴジマ録音)など多数リリース。マレのIVは第45回レコード芸術アカデミー賞[音楽史部門]受賞、オルティスは朝日新聞特選盤に選ばれた。オルティス著『変奏論』(1553)を邦訳(アルテスパブリッシング)、またイタリア語版『変奏論』(スペイン国立図書館蔵)をもとにした楽譜『Diego Ortiz: Recercate』(edition offenburg 独)を編集した。2017年度まで国立音楽大学、京都市立芸術大学音楽学部非常勤講師を務めた。富山古楽協会セミナー講師。<http://s.ameblo.jp/masakohirao>

本村睦幸: アムステルダム・スウェーリンク音楽院卒。ワルター・ファン・ハウエ、ジャンネット・ファン・ウインゲルデンに師事。アムステルダムを拠点とした演奏活動を経て2001年より日本に拠点を戻した。現在は、室内楽にとって本来の小さなサロンのあり方を探る〈小さな室内楽〉シリーズを活動のベースにおきながら、リコーダーの様々なレパートリーを網羅的に取り上げる〈本村睦幸リコーダーシリーズ〉のほか、アンサンブルのための現代作品の委嘱も行うなど、リコーダー音楽の可能性を追求している。また、2012年より東京にて「高田馬場リコーダ練習所」を立ち上げ、レッスンの拠点にしている。CDに「オランダバロックの愉悅」、「バルサンティ：リコーダーソナタ全6曲」、「無伴奏リコーダー600年の旅」、「テレマン：12の無伴奏ファンタジア」がある。ウェブページは、<http://mutsuyukimotomura.com/>

上尾直毅: 東京藝術大学器楽科ピアノ専攻を卒業後オランダに渡り、チェンバロをG・レオンハルト、A・アウテンボッシュの両師に師事、フォルテピアノをS・ホーホランド氏に師事しそれぞれソリストソリストディプロマを得て卒業。近年はチェンバロ、フォルテピアノの他、特にクラヴィコードの演奏にも力を注いでいる。現在、日本国内を中心に鍵盤楽器奏者、および18世紀フランス宮廷バグパイプ「ミュゼット」奏者としてCD録音や数々のコンサートで活躍中。「レ・ボレアード」(指揮：寺神戸亮)、「オーケストラ・リベラ・クラシカ」(指揮：鈴木秀美)、声楽アンサンブル「ラ・フォンテヴェルデ」などの古楽オーケストラやアンサンブルのメンバーとして活躍している。ソロのCDではフォルテピアノによる「ベートーヴェン61鍵の時代」ならびにクラヴィコードによるC.P.E.バッハの鍵盤作品集「静寂の語らい」がそれぞれレコード芸術誌で特選盤に選ばれるなど各方面で大変高い評価を得た。現在、桐朋学園大学音楽学部講師。

福島康晴: 東京音楽大学作曲科卒、同大学院作曲科修了。大学院修了後バロック音楽に傾倒し、声楽を牧野正人氏に師事。2006年に渡伊、声楽をB・M・カゾーニ、V・マンノ、A・ジャンネーゼの各氏に師事。イタリア・ミラノ市立音楽院において「ルネサンスのポリフォニー」をD・フラテリに学び、2009年にはM・グランチーニ(1605-69)の論文とコンサートにより、最高点・褒賞付きで修了。また、ミラノ市立音楽院の指揮科にも在籍し、E・ポマーリコ、R・リヴォルタ、杉山洋一の各氏に師事。2012年12月に6年間に渡るイタリアでの活動に終止符を打ち帰国。2014年にはA L Mレコーズより発売された『A. ステッファニーニ：2声のための室内カンタータ集(レコード芸術特選盤)』にテノールとして参加。また、イタリア・バロック音楽を専門に演奏するプロフェッショナルな団体、エクス・ノーヴォ室内合唱団を立ち上げ、そのオリジナリティー溢れるプログラミングと質の高い演奏に期待が寄せられている。その他、1600年前後に出版された当時のイタリア音楽の理論書に精通し、講習会やセミナーなどで講師を務める機会も多い。

福岡彩: 桐朋学園大学古楽器科卒業。同大学研究科修了。アムステルダム音楽院卒業。パリ国立高等音楽院で室内楽を専攻する。チェンバロを故鍋島元子、渡邊順生、ボブ・ファン・アスペレンの各氏に師事。古楽コンクール(山梨)、ブルージュ国際古楽コンクールなどで受賞。2012年～2015年度桐朋学園大学嘱託演奏員。現在は東京を拠点に、オペラや劇音楽などの通奏低音奏者としても積極的に活動している。また、木の器にて国内外の演奏家と共に数多くのコンサートを企画、運営している。

遠藤雅司: 歴史料理研究家。国際基督教大学教養学部人文科学化音楽専攻卒業。卒業論文は『J.ダウランドの音楽と生涯』。2013年より音楽と食事で世界および時間旅行をいっばんに疑似体験するコンセプトで歴史的な料理を現代日本においしく再現するプロジェクト「音食紀行」を開催。著者に『歴メシ!』(柏書房)、『英雄たちの食卓』(宝島社)があり、本年以降も多数出版予定。ウェブページは、<http://onshokukiko.com/wpd1/>